

【寒川町】 校務DX計画

寒川町では、1人1台端末導入後は、授業支援ソフトウェアや学習eポータル等を活用し、児童生徒への各種連絡のデジタル化を進めてきました。

また、令和5年度に校務支援システムを導入するとともに、令和6年度には欠席連絡ツールの導入や録音装置付き電話の設置等、教員の働き方改革を推進してきました。加えて、令和7年度には小学校校務用サーバーのクラウド化を実施したことで、町内小中学校全8校について、校務支援システムのグループウェア機能の活用だけでなく、クラウドサーバーを通じて教員間で伝達事項、各種資料をオンラインで共有することが可能となりました。

このように、各種デジタル化・オンライン化を進めてきましたが、学校現場においては、依然として紙ベースの資料が多くみられるのも事実です。そのため、業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要があります。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組みを次のとおり定めます。

1. ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

寒川町では、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と児童生徒が一人一台端末にて教育活動で利用する「GIGA系」の2つに分離している。教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じたうえで、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進めます。

(2) 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムはオンプレミス型で運用しており、教務・保健・学籍・成績管理など幅広い業務で利用しています。欠席連絡ツールなど汎用クラウドツールと連携し、教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、校務支援システムのクラウド化について、全国の先進自治体の動向を調査します。そして、校務支援システムの次期更新時（令和9年12月末）のクラウド化を目指し、学校現場の教員と情報共有しながら、仕様の作成及びシステム設計、調達事務等を進めます。

(3) 教育ダッシュボードの創出

授業支援ソフトウェアで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データ、児童生徒の出欠席及び成績情報等の校務系データなど、膨大な教育データを収集・分析・可視化するインターフェース（教育ダッシュボード）を構築し、そこから得られる情報を効果的に活用して、業務及び授業の改善につなげることが期待されています。教育ダッシュボードの研究・開発については、校務支援システム及び学習eポータル等の事業者が進めているところであり、寒川町にとって最適な教育ダッシュボードの活用方法について調査研究します。

(4) FAX及び押印の見直し

寒川町では、校務支援システム内のグループウェア機能により、学校-学校間、町教育委員会-学校間の文書連絡・資料送付等に活用しています。

一方で、令和5年12月に文部科学省より発出された「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されています。

緊急連絡や教育ネットワークの不具合時、FAXのほうが電子メール等より効率的な場合など一部を除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者に対して、町教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

あわせて、各学校に対して、外部へ児童生徒の個人情報など機微な情報を送信する際の注意事項等について周知啓発します。

(5) ペーパーレスの推進

校内の職員会議等において、校務支援システムのグループウェア機能で資料等を共有してきました。

今後は、研修等において端末を活用し、研修資料等のペーパーレス化を一層推進していきます。

(6) その他

学校現場では紙のテストの採点業務が教員の負担になっています。デジタル採点システムを導入している先進自治体の取組を参考とし、令和8年度より、町内中学校3校にデジタル採点システムを導入しました。今後も引き続き、ICTを活用した採点業務の効率化について調査研究します。